

びぶいお定期便

「本の甲子園」とも言われる全国高校ビブリオバトルの季節が、今年もやってきました。11月4日には、岐阜県大会が行われ、チャンプ本は『珈琲店タレーランの事件簿』(岡崎琢磨/著)でした。優勝者は来年1月に行われる全国大会に、岐阜県代表として出場します。高校生たちによる本をめぐる熱い戦いをみなさんぜひお見逃しなく!あなたの人生を変える運命の一冊に出会えるかもしれません。

恵那市中央図書館 ジュニアコーナー 10月の新着本紹介

書名	著者名	出版者	請求記号
マネーという名の犬	ボード・シェーファー/著	飛鳥新社	338.1/シ/
いじめ 心の中がのぞけたら2・3	本山理咲/著	朝日学生新聞社	K726/ㇿ
風の声が聞こえるか	はらだみずき/著	KADOKAWA	913.6/ハ/
パンツ・プロジェクト	キャット・クラーク/著	あすなろ書房	K933/ク/

今月のイチオシ!

今月のおすすめ びぶいお本

『世界で一番の贈りもの』
 マイケル・モーパゴ/作 評論社
 933.7/モ ジュニアコーナー

がらくた屋で見つけた机の中に入っていた一通の手紙。戦地の最前線で戦う兵士が妻に当てたその手紙には信じられないような内容が書かれていた。1914年、第一次世界大戦中ドイツ兵とイギリス兵の間で非公式の休戦が起きました。クリスマスの夜に起きた奇跡のようなこの一夜は「クリスマス休戦」と呼ばれ、兵士たちやその家族によって語り継がれていくことになりました。平和を願う人々の想いが溢れ出してくる感動の絵本です。みなさんもぜひ読んでみてください。

恵那農業高等学校

今年は恵那農業高校創立50周年・西苑会75周年の年にあたり毎年11月23日に行われる「農高祭」が今年も無事終了し、例年以上に盛大に行われました。当日には沢山のお客さんが、農高味噌やジャム、シクラメンやシンビジウムを買いにいられて、とても賑わいました。今年は天候不順ということで、大根・ネギ・白菜がとてよく売れたそうです。各科では展示もあり、その成果を見ることができました。また卒業生も農高を懐かしみたくさん訪ねて来ました。皆さんも一度農高祭へお越しください!

オススメの一冊

『世界から猫が消えたなら』 川村元気著

長編というほど長くなく、言わば中編小説です。タイトルから察して、動物との心の触れ合うお話かなと敬遠していたのですが、実はそうではなくて、普遍的な、なかなかいい話です。死生観について考えさせられるし、家族についても考えさせられる、そんな小説です。

リブラリアン・ホンダ

恵那南高等学校

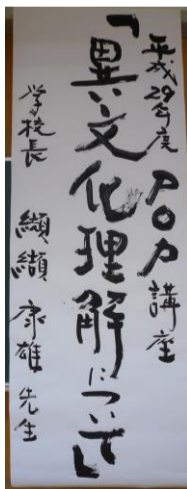
恵那南高校では毎日10分間朝読書を行っています。その甲斐あってか前期の生徒一人当たりの平均読書冊数は6.4冊でした。ライトノベルが人気ですが、月一回の図書館だよりで紹介される先生方のおすすめの本も人気があります。11月は校長先生より『「また、必ず会おう」と誰もが言った。』が紹介されました。

『「また、必ず会おう」と誰もが言った。』
 喜多川泰/著 サンマーク出版

☆ストーリーを少々紹介
 主人公「秋月和也」は、熊本県内の高校に通う17歳。ひょんなことからついでにしまったウソが原因で、単身ディズニーランドへ行く羽目になる。ところが不運が重なったことから最終便の飛行機に乗り遅れてしまう和也。所持金は3,400円。「どうやって熊本に帰ればいいのか」と途方に暮れる彼に、「おい、若者」と声を掛けたのは空港内の土産特売場で働く一人のおばさんだった・・・
 人生を考え始めた高校生に大人達が語りかける、当たり前だけどキラリと光った言葉の数々、まさに青春の1ページを満喫できますよ。

恵那高等学校

11月15日にPOP講座が開かれました。POP講座とは本校の図書委員会が主催する教養講座で「人に親しまれ(Popularity)、生徒独自の(Originality)、心に残る(Philosophy)講座を企画する」ものとして1997年より開催しています。20回目となる今回は、本校の瀬瀬康雄校長先生に依頼し、「異文化理解について」というテーマで講演をしていただきました。校長先生は二年間オーストラリアに滞在し、現地の学生に日本語を教えていました。その経験から人と関わる中でどのようなことを大切にすれば良いかを、様々な視点から伝えてくださいました。その中で特に印象に残っていることは、「自らの国の文化を自分の言葉で語れないといけない」ということです。互いの文化の違いを認識し理解するためには、語学ももちろん大切だけれど、まずは自らの国の文化について知ることによって他国との文化の違いに気付くことができる、そうすることでお互いの文化がより理解できると仰っていました。約一時間の短い時間でしたが、グローバル社会で生活していくうえで大切なことについて知ることのできる充実した時間を過ごすことができました。



恵那特別支援学校

11月10日(金)、11日(土)の二日間、恵那特別支援学校にて「ハッピーマイル～みんながきらきら輝ける二日間に～」をテーマに知新祭(学校祭)を開催し、ステージ発表や作品展示、ロックビレッジバザール(作業製品・作品販売会、販売体験)を行いました。ステージ発表では、楽器演奏や劇、ダンス等、練習した成果を発揮し、堂々と発表するたくさんの姿がありました。ロックビレッジバザールでは、作業学習でつくった製品や作品を販売(中学部は販売体験)しました。たくさん売れるように大きな声で呼び掛け、自分のつくった製品が売れたときには喜びを感じることができました。12月16日(土)には、「ウィンターコンサート」を本校で行います。100人規模の大バンドです。お時間がありましたら、是非ご来校ください。

『虹の橋』 葉 祥明 絵・訳 (佼成出版社)

インターネットで話題になった作者不詳の詩「虹の橋」が絵本になりました。愛するペットとの別れ...それはとても悲しいものです。しかし、その別れは永遠のものではありません。会いたい気持ちは、いずれきっと叶います。そして、愛するペットも大好きな飼い主のことをいつまでも思っています。動物を飼っている人、動物が好きな人必見です!!